東中だより

令和７年５月３０日（金）余市町立東中学校 発行

校訓…「進取」「利他」

学校教育目標
- ○自律…自ら考え判断し行動する
- ○尊重…多様性を受け入れ対話し解決する
- ○創造…豊かな発想で新たな価値を生み出す

修学旅行で感じたこと

校長　明　村　秀　之

桜の季節があっという間に通り過ぎ、学校の周りは新緑でいっぱいになりました。

この時期は渡り鳥であるツバメが飛び回り、校舎玄関先に巣作りする姿を見られる学校が多いのですが、東中では残念ながら目にすることはありません。天敵のカラスやトビが裏山に多く飛んでいるからでしょうか。昔からツバメが巣を作るのは縁起がよいとされているので、目にすることができたらいいなと思ってしまいます。

さて、３年生の修学旅行（２泊３日）、２年生の宿泊研修（１泊２日）の旅行的行事が無事に終了しました。

私は修学旅行の引率をしたのですが、生徒と一緒に貴重な体験をすることができました。また、ちょっとした優しさあふれる生徒の姿をみることができ、心がたくさん温まりました。ほんの一部ではありますがご紹介します。

修学旅行の行程は

①バスと新幹線異動で青森、弘前でねぶた関連施設見学、岩手八幡平泊

②盛岡での自主研修、秋田県角館見学、男鹿温泉泊

③真山神社、なまはげ伝承館見学、寒風山見学・昼食、飛行機で移動帰着

となっています。

新幹線は新青森駅までは１時間程度です。初めて乗車する生徒も多く、新幹線の揺れの少なさに驚いていました。私も乗車するたびに、ものづくり日本の高い技術に感動します。

乗り込んですぐのことです。足下が狭くなるので、スーツケースを座席上の棚に載せる生徒が何名かいました。その中に、隣の席にいる女子生徒のスーツケースも棚にスッと載せる男子生徒の姿を見ました。ちょっとしたことなのですが、優しい雰囲気の様子に心が温かくなる光景でした。また、観光地でおみやげを買う際は、部活の後輩や家族一人一人のことを思い浮かべながら「何がいいかな？」と悩む姿がとても愛おしく感じました。「仏さんの分も買ったんだよ。」という声も聞かれ、大変感心しました。

今回の修学旅行では、伝統芸能や文化を学ぶ機会がたくさんありました。青森ではねぶた祭り、弘前ではねぷた祭りの発祥やお囃子、山車などについて学びました。お囃子で使用する太鼓を演奏してみる体験などもありました。

男鹿半島では、有名な「なまはげ」にまつわる生活文化や芸能を学びました。なまはげは秋田県全体ではなく、男鹿のみで行われているものであり、お面の種類や各家庭への訪問の仕方は集落ごとに違うことを学びました。

２日目の夜に、「なまはげ太鼓」のライブ演奏に参加しました。和太鼓の大迫力な演奏に度肝を抜かれるような感じがしました。約３０分間の演奏でしたが、生徒の心に深く印象付いたのではないかと思います。ホテルの支配人が我々の座席の後方で見ていたのですが、「生徒のみなさんは、すごいノリノリでしたね。こんなに盛り上がってくれる学校はそんなにありません。うれしいです。」とおしゃっていただきました。さらに、演奏しているのは、地元出身の若者たちであり、ふるさとである男鹿の伝統や良さを広めたいという熱い想いを持って活動しているとのことでした。その熱量が演奏の迫力となって表現され、私も含め鑑賞した人の心を打つのだろうと思いました。

修学旅行のまとめ学習では、なまはげ太鼓のことを伝えたいと考えている班があります。すてきな影響を受け、うれしいことだなあと思いました。

ふるさと教育として、小学校から様々なことに取り組んでいますが、今回のような体験をすることは大いに意義のあることでした。

６月に修学旅行報告会を実施します。現在、その準備に励んでいるところです。どんなまとめとなるか楽しみです。